



2020年6月29日

公益財団法人

船井情報科学振興財団御中

イェール大学 感染症疫学 博士課程 4年

塩田 佳代子

2016 年度派遣奨学生 第九回 留学報告書

博士課程 4年目も終盤に入り、ついに卒業が間近になりました。ここ数ヶ月は最後の仕上げをしています。Dissertation の全章を書き終え、6月19日に Dissertation Advisory Committee の先生方に送りました。7月9日に Closed defense をし、そこで合格がもらえれば8月7日前後に3人の readers と Graduate School of Art and Sciences に dissertation を提出することになります。そこから30日の間に3人の readers が dissertation を読み、合否を決めるという流れです。そして public presentation を行い全ての行程が終了となります。正式な degree conferral は12月になります。

新型コロナウイルスで世界情勢が混乱し、米国のほとんどの大学は hiring freeze をしていて、さらにはビザ発給の状況もどんどん悪化してきている中職探しをするのは少々大変でした。幸いなことに複数の大学からオファーをいただくことができたので、プロジェクト内容、雇用形態、salary や benefit、キャリアサポートなどをじっくり交渉しました。どのプロジェクト内容も私の研究興味とマッチしていたしオファー内容も素晴らしいものばかりで非の打ち所がなく非常に迷いましたが、多くの人に相談して Emory University の Academic Research Scientist (ポストドクにほんの少し毛がはえたような職位) のオファーを受けることに決めました。獣医師・感染症疫学者・数理モデラーとして、One Health (環境・動物・人間の健康問題を包括的にみて改善しようという考え方) の研究や新型コロナウイルスの研究に関わる予定です。…といってもこの職位は hiring freeze の対象になっている上、Optional Practical Training (OPT) が発行されなければ働けないので、正直最後までどうなるか分かりません。また、家族の都合でまだ4~5年は Yale 大学付近にいないといけないため、Emory で雇われているとはいえ主にリモートで仕事をする予定です。就職活動を始めた当初は Connecticut からギリギリ通勤できる Massachusetts、New York、New Jersey あたりで探していたのですが、光栄なことに西海岸や南部などの大学からも声をかけて頂くことができ、アメリカのリモートワークに対する考え方や

懐の深さに驚きました。私自身もそうですが、国際保健分野の研究者は世界中にコラボレーターがいて日頃からオンライン会議をしているので、リモートワークへの耐性が強いのかもかもしれません。

私は専門が感染症疫学なので、新型コロナウイルスのパンデミックが始まってから毎日バタバタ過ごしています。研究はもちろんですが、オンラインセミナーで感染を防ぐ方法について解説したり、質問に答えたり、州政府や市政府の要請に答えたり、様々なことをしてきました。またいつか機会があったらお話しできたらと思います。

最後に

終わりが見えてきたとはいえ、学位がもらえる瞬間まで（そしてそのあとも）気を抜かずに頑張りたいと思います。いつも温かいご支援誠にありがとうございます。これからもどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

塩田佳代子

Kayoko Shioda, DVM, MPH
kayoko.shioda@yale.edu